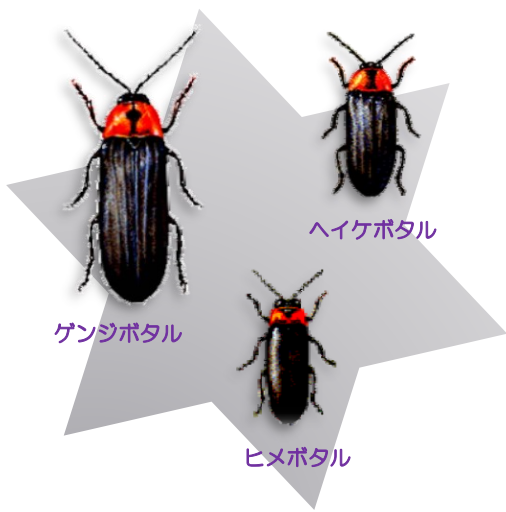
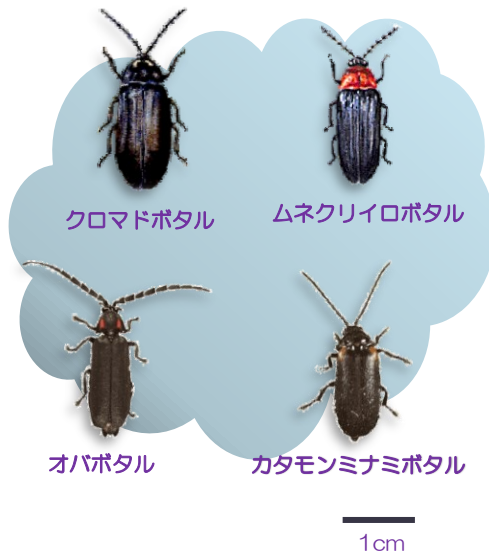


秦野で見られるホタル

光 でコミュニケーション



匂い でコミュニケーション



光でコミュニケーションをするホタルにとって人工的な光は大敵です。水路を照らす街灯などはホタルの生息の大きな障害になります。観察に際しては、明るいうちに現地に着き、危険な場所はないか十分に確認した上で、懐中電灯の使用はできるだけ控え、点ける場合はホタルに光が向かないように注意してください。

くずはの広場で見つかった“光る”生きもの



ホタルミミズ

ピンク色でやや透き通ったミミズ。襲われた時に敵を驚かすためお尻の先から黄緑色の発光粘液を出します。2015年に発見されました。



発光性キノコバエの幼虫

2017年、発光性キノコバエの幼虫が神奈川県内ではくずはの広場で初めて発見されました。チリメンタケの裏のひだに生息しています。

参考文献：「ホタル点滅の不思議—地球の奇跡—」横須賀市自然・人文博物館

編集・発行：秦野市くずはの家 〒257-0031 秦野市曾屋 1137 TEL:0463-84-7874

発行日：2024年1月31日

＊このリーフレットは公益財団法人かながわトラストみどり財団の助成金を活用して作成されました。

くずはの広場・かんさつガイド⑫

ゲンジボタル



くずはの広場の「とんぼのせせらぎ」と「ほたるの里」では、毎年5月中旬～6月下旬の日没後1時間ほどすると、ゲンジボタルが光る様子が見られます。



撮影地：とんぼのせせらぎ

ホタルはきれいな水の流れる川の水辺にすむ生き物というイメージがあります。世界にはおよそ2700種のホタルが生息していますが、このうち幼虫が水中に生息する種類は10種程度。約99%のホタルは陸生の昆虫です。

日本でよく知られているゲンジボタルやハイケボタルは水生の珍しいホタルです。



ゲンジボタル

ゲンジボタルの一生

ゲンジボタルは卵から成虫になるまでに約1年かかり、生涯の大部分を水中で生活します。成虫になってからの寿命は10日前後。体長はオスが12~15mm、メスが18mmとメスのほうが大きいです。

ゲンジボタルが最も活発に活動する気候条件は、気温が高く月明かりのない曇った日で、風のない夜とされています。



たまご

卵の大きさはおよそ0.5mm。産卵直後から発光し、およそ1か月でふ化します。



エサとなるカワニナを食べる幼虫

幼虫は9か月間水の中で暮らし、5~6回脱皮します。自分の体に合った大きさの淡水性巻貝のカワニナを捕らえて、その肉を溶かして食べます。餌が不足すると、2~3年かけて成虫になる場合もあります。



上陸の夜に強く発光する

桜の開花する頃の雨の夜に、お尻を光らせながら水中から上陸して土にもぐります。



約2か月地中で過ごす

体から出した粘液で周囲の土を固めて「土まゆ」をつくり、地中で約2か月過ごします。



成虫

日没後30分~1時間に飛翔

成虫は水以外エサを取らず寿命は10日前後。昼は木陰で休み、夕方暗くなると光り始めます。気温が15℃を下回るような寒い日は、飛び回らず藪の中で静かに光っています。



産卵

産卵

交尾が終わるとメスは数日かけて卵を産みます。草の根元や日中ほとんど日の当たらない川岸の水際近くに生えているコケに産卵します。1匹のメスが産む卵は500~1000個。

交尾



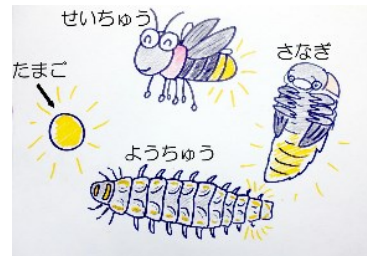
交尾の時間は15時間前後



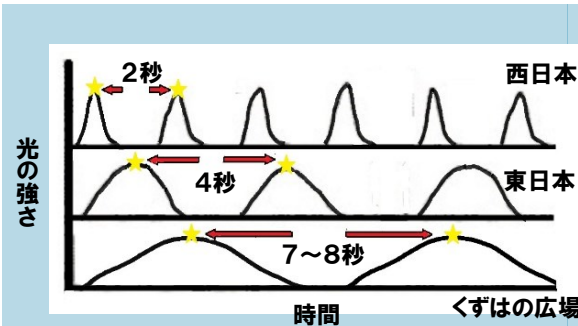
発光器は腹にあり、オスには2か所、メスには1か所あります。オスの方が強い発光をします。

ゲンジボタルの生活史

ゲンジボタルの観察は桜の開花時期から始まります。神奈川県では、3月下旬の温かい雨の降る夜、終齢幼虫がお尻を光らせながら上陸します。上陸は3月下旬から4月上旬にかけて多いものの、5月に入っても散発的に続き、1か月以上観察できます。地中でさなぎの期間を約2か月過ごし、5月下旬、成虫が飛翔しはじめます。成虫は水以外エサを取らず寿命は10日間程度。メスは交尾後4~5日で産卵。卵は約1か月でふ化し、幼虫が水中で生活を始めます。巻貝のカワニナをエサにしなが、5~6回脱皮して成長し、翌年の桜の開花時期に上陸するのです。



ゲンジボタルは、成虫だけではなく、卵も幼虫もさなぎも光ります



発光周期に地域差あり

ゲンジボタルは地域によって発光周期が異なります。西日本は2秒間隔、東日本は4秒間隔で、その境は岐阜県あたり。**秦野市**や中井町などで見られるホタルは発光間隔が7~8秒。発光パターンが突然変異し、地域個体差として広がったと考えられます。